Google Cloudで認証情報を作成する

nPOPでGmailを使うための手順書

対象：各利用者が自分のGoogleアカウントで新規に設定する場合。デスクトップアプリ用のクライアントID・クライアントシークレットを作成し、JSONファイルを保存するところまで説明します。

作業のゴール：認証情報JSONを手元のPCに保存すること。 文字列を手入力するより、JSONをnPOPで読み込む方法が確実です。

1. Google Cloud Consoleを開く

1. Google Cloud Consoleを開き、Gmailを利用する本人のGoogleアカウントでログインします。

2. 初回に利用規約などが表示された場合は、内容を確認して進めます。

3. 画面上部のプロジェクト選択を開き、「**新しいプロジェクト**」を選びます。

4. プロジェクト名を **nPOP Gmail** などにして作成します。組織・場所の入力が必要な場合は、利用できる組織を選びます。個人利用で「組織なし」が選べる場合は、そのままで構いません。[1]

5. 作成完了後、画面上部で今作ったプロジェクトが選択されていることを確認します。

2. Google Auth Platformを初期設定する

左上のメニューから「**Google Auth Platform**」→「**ブランディング（Branding）**」を開きます。「開始する（Get Started）」が表示されたら押してください。[2]

入力・選択する項目	設定例
アプリ名	nPOP Gmail
ユーザーサポートメール	本人が確認できるメールアドレス
対象（Audience）	個人のGmailを使う場合は「外部（External）」
連絡先メールアドレス	Googleからの連絡を受け取れる本人のアドレス

「次へ」で進み、表示されるポリシーを確認します。同意する場合はチェックして「続行」→「作成」を押します。会社などのGoogle Workspaceでは、管理者の制限に従ってください。[2]

利用者とメールの権限を設定する

3. 自分のGmailをテストユーザーに追加する

1. 「**対象（Audience）**」を開きます。

2. 公開ステータスが「**テスト（Testing）**」であることを確認します。この手順書ではテスト状態で進めます。

3. 「テストユーザー（Test users）」の「**ユーザーを追加（Add users）**」を押します。

4. nPOPで使うGmailアドレスを入力し、保存します。複数のGmailを使う本人は、必要なアドレスを追加してください。[2]

プロジェクトを作成しただけでは、利用するGmailがテストユーザーに登録されたとは限りません。ここで登録を確認してください。

4. 必要な権限を追加する

「**データアクセス（Data Access）**」→「**スコープを追加または削除（Add or remove scopes）**」を開きます。一覧に見当たらない場合は、スコープを手動で追加する欄を使います。[2]

次の2つを追加します。

スコープ（そのまま入力）	このnPOPでの用途
https://mail.google.com/	GmailのIMAP受信・SMTP送信。メールの閲覧・送信・削除を含む権限です。[4]
https://www.googleapis.com/auth/userinfo.email	ログインしたGoogleアカウントと、nPOPに設定したメールアドレスが一致するか確認します。

「テーブルに追加」などのボタンがある場合は押し、「**更新**」→「**保存**」で反映します。表示名や保存ボタンは、画面の言語・更新状況で少し異なります。

このページの完了確認

☐ nPOPで使うGmailアドレスをテストユーザーに追加した。

☐ データアクセスに上の2つのスコープが登録されている。

「テスト」の有効期限について

Gmailの権限を使う外部アプリをテスト状態で利用する場合、継続ログイン用の認証情報は通常7日で期限切れになります。その場合はnPOPでGoogleログインをやり直します。クライアントIDそのものが7日で消えるという意味ではありません。[6]

クライアントIDとシークレットを作成する

5. デスクトップアプリを作成する

1. 「**Google Auth Platform**」→「**クライアント（Clients）**」を開きます。
2. 「**クライアントを作成（Create client）**」を押します。
3. 「アプリケーションの種類」で「**デスクトップアプリ（Desktop app）**」を選びます。
4. 名前に **nPOP Windows** などと入力します。この名前は認証情報を管理するときの目印です。
5. 「**作成（Create）**」を押します。[3]

この手順で選ぶのは「デスクトップアプリ」です。「ウェブアプリケーション」「APIキー」「サービスアカウント」と取り違えないよう、種類を確認してください。

6. 作成直後にJSONを保存する

作成完了の画面で、クライアントIDとクライアントシークレットを確認します。**画面を閉じる前に「JSONをダウンロード（Download JSON）」を押してください。** [5]

重要：シークレットは作成時に保存してください。

Googleの現在の案内では、クライアントシークレットの全体を表示・ダウンロードできるのは作成時です。後から同じ値を取り出せないことがあります。[5]

1. ダウンロードした **client_secret_…json** などのファイルを確認します。
2. 自分のPCの管理しやすい場所へ移します。例： **C:¥Tools¥nPOP**。
3. ファイルを保存できたことを確認してから、作成完了の画面を閉じます。

作成できたもの	意味・使い方
クライアントID	作成したデスクトップアプリを識別する値
クライアントシークレット	Googleが発行する認証情報の一部。Gmailのパスワードではありません
認証情報JSON	上の値をまとめたファイル。nPOPではこのファイルを選択します

JSONやシークレットを、メール・チャット・公開フォルダーへ貼り付ける必要はありません。この手順書には実際の認証情報は記載していません。

完了後にnPOPへ登録する

Google Cloudでの作成作業は、JSONを保存できれば完了です。以下は、この改良版nPOPで使い始める場合の追加手順です。

7. Gmailアカウントを登録する

1. **nPOP.exe と nPOPGoogle.exe** を同じフォルダーに置きます。

2. Gmail用アカウントの設定を開き、「**受信**」のユーザー名に利用するGmailアドレスを入力します。

3. 「**Google OAuth**」タブの「GmailでGoogle OAuthを使用する」にチェックを入れ、**一度OKで保存**します。

4. アカウント設定を開き直して 「**Googleでログイン**」を押します。

5. 先ほど保存したJSONを選択します。

6. ブラウザーで、nPOPに設定したものと同じGoogleアカウントを選びます。自分で作成したアプリ名と要求された権限を確認して、利用を許可します。

7. 認証保存のメッセージが出たら、nPOPで新着チェックを行います。

この版では、OAuthのチェックを有効にして保存すると、受信をGmailのIMAP、送信をGmailのSMTPの暗号化接続に設定します。ログイン操作自体ではメール送信を行いません。

完了チェック

☐ プロジェクト名を控えた。

☐ テストユーザーに利用するGmailを追加した。

☐ 種類が「デスクトップアプリ」のクライアントを作成した。

☐ 作成直後に認証情報JSONをダウンロードした。

☐ JSONの保存先が分かる。

管理用メモ（認証情報そのものは書かない）

プロジェクト名：_____

クライアントの名前：_____

JSONの保存フォルダー：_____

設定した日：_____

困ったとき・公式の参照先

よくあるつまずき

状況	確認すること
アクセスが拒否される・403が出る	正しいプロジェクトの「対象」で、ログインするGmailがテストユーザーに登録されているか確認します。別のGoogleアカウントでログインしていないかも確認します。
JSONの種類が違うと言われる	「デスクトップアプリ」で作ったクライアントのJSONを選び直します。
シークレットを保存する前に画面を閉じた	新しいデスクトップアプリ用クライアントを作成し、今度は作成直後にJSONを保存します。新しいJSONでnPOPへログインし直します。[5]
しばらく使うと再ログインを求められる	テスト公開時の通常7日の期限、Google側での許可取り消しなどが考えられます。nPOPの「Googleでログイン」を実行します。[6]
会社・学校のアカウントでブロックされる	Google Workspaceの管理者に、外部アプリの利用可否を確認します。

この資料は各利用者が自分で設定するための手順です。1つのアプリとして一般公開・配布する場合は、Googleの公開・審査要件を別途確認してください。[4]

公式の参照先

[1] Google Cloud：プロジェクトの作成

[2] Google：OAuth同意画面・対象・スコープの設定

[3] Google：認証情報の作成／Desktop app

[4] Gmail：IMAP・SMTPのOAuth 2.0

[5] Google Cloud：OAuthクライアントとシークレットの管理

[6] Google：更新用トークンの有効期限

確認日：**2026年10月31日**。Googleの画面表示が変わった場合は、上の公式資料の項目名を手がかりにしてください。画面名は日本語と英語を併記しています。